

俳句

にし
お
き
とう
西尾其桃



下関市
(1868～1931)

西尾其桃（本名、弥三郎）は、現在の神戸市垂水句奥畑の生まれ。西尾家に養われ、檀那寺の潮海寺住職の三千堂清月老師に発句を学ぶ。医を志し、長崎への途次、長門古市の内藤呉竹楼医師の書生となる。大阪に出京の折、柳庵一瓢、帯経庵碌々に美濃派の俳諧を学ぶ。不老窟三世波多野桃二の文台を継ぎ四世を襲名、美濃派の俳諧を広めた。高村桃甫に文台を譲り下関に開院。上京して森山鳳羽に俳諧を学ぶ。昭和六年、和歌山白浜にて客死。其桃門寺崎方堂は恩師其桃を無名庵十七世と追号し自分は十八世となる。日和山に句碑「春の日のきらめく蘭の葉尖哉」がある。（中村石秋）

【主な著作】

句集『其桃集第一輯』

『俳諧式一考』